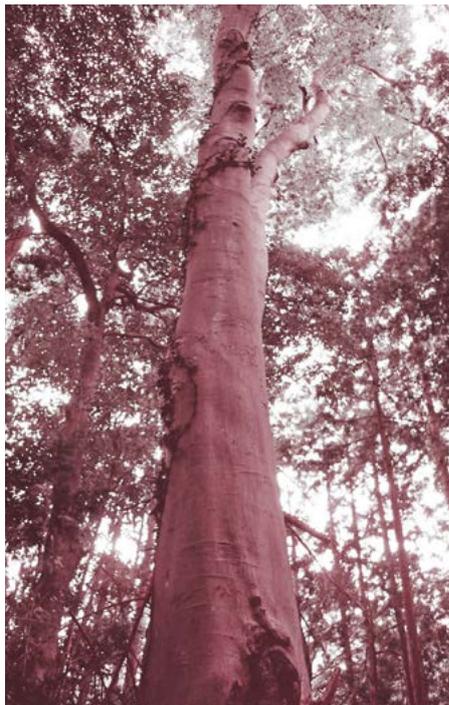


ブナはどこにあるの？

ブナは落葉高木で、落葉広葉樹林を構成する代表的な植物です。茨城県内では、八溝山、花園山、男体山などの県北山地や筑波山塊の筑波山、加波山、吾国山などの尾根筋などの高所に点々と生育しています。

常陸大宮市には標高の高い山はなく、美和地域の尺丈山が最も高く、標高511.5mです。本市では、ブナは山方地域と美和地域に生育しています。

山方地域では盛金富士と同じく盛金の羽黒神社の裏山の2か所で確認されています。盛金富士の生育地は登山道のベンチのある標高約260m付近から登山道に沿って標高約300m付近までの間の3か所で4個体が確認されています。260m付近では幹囲74cmのものが1個体ですが、標高290m付近で幹囲57cmのものを1個体、標高約300m付近では幹囲51cmと134cm(株立ち2本の合計)の2個体を確認しています。また、羽黒神社の北側斜面の生育地(標高約180m)では幹囲156cmのものと225cmの2個体が確認されています。



▲山方地域「盛金羽黒神社」に生育しているブナ

また、美和地域の鷺子山(標高約400m付近)でも生育していますが、こちらは幹囲約80cmのものと56cmの2個体が確認されています。

また、美和地域の下檜沢熊久保では標高約350mの尾根で幼木1個体が確認されています。尺丈山にはブナの記録(鈴木昌友他1981)がありますが、現在は確認ができません。ただ、2011年から2013年頃に「百樹の森記念植樹」として旧美和村の小中学生の卒業記念などで、かなりの個体数が植樹されています。これらは現在、幹囲35cmから50cmほどに成長しています。市内をもう少し詳しく調査すれば生育地や個体数なども増えるかもしれません。

常陸大宮市には林としてのブナ林こそありませんが、このように、太平洋側で低い山にブナが分布しているのは大変貴重なことであるといわれています。



▲旧美和村の小中学生が卒業記念で行っていた「百樹の森記念植樹」看板

【参考文献】

ミュージアムパーク茨城県自然博物館編、2020：いのち育むブナの森—森のぬくもり、もりだくさん！—、ミュージアムパーク茨城県自然博物館
鈴木昌友他、1981：茨城県植物誌、茨城県植物誌刊行会

(常陸大宮市史編さん委員会 自然部会専門調査員 藤田弘道)

■問い合わせ■

文化スポーツ課
文化振興グループ 電話：52-1111(内線343)

『常陸大宮市史 別編2 自然』、
文化スポーツ課ほかにて
販売中！

